

2月20日 火曜日

親愛なる [REDACTED]

貴女も私もよく知っている大菩薩禅堂とニューヨーク禅堂の事情に関する事でこの手紙を書いています。貴女はこのような事件に関わった只一人の女だと思っておられるかもしれませんが、実はそうではありません。

私は大菩薩禅堂滞在中、栄道老師の誘惑に悩まされ（仄めかしから淫らな誘いに至る迄）－二度目の滞在中は幾らか少なかったように記憶していますが、多分 [REDACTED] のせいだと思います。最初の時は独参室内や接心中に、愛法が重病だ等の話や質問攻めで執拗に付きまとわれました。6ヶ月間私は誰にもこの事を打ち明けず、りんこうやこりんが、何事が起ったのかと質問したのですが、私はきっぱりと否定しました。私はみんなから老師の女だと思われるよりも、只の弟子であると思われる方が良いと思いました。

1977年2月、禅堂を去る少し前、私と直接関係は無かったのですが、酷い事件が起きました。[REDACTED] という名前のとても美しい女性が、結制の始まる2～3週間前、短期滞在生としてやって来ました。彼女は個人的な事で何かとても不幸な経験をしたそうで、精神的に混乱状態にあったので、逃避的な滞在だったと思います。彼女は結制にも参加するつもりだったようです。老師は不在だったのですが、彼が帰った夜、彼は彼女に誘いを掛けました。彼女は [REDACTED] にこの夜の一件を語り、翌日禅堂を去りました。[REDACTED] が老師に、なぜ彼女はあのように早急に去ったのであろうかと質問すると、老師は“明らかに彼女はヒステリーだ”と言いました。

私は私に起った事件についてごく少数の人に、極秘にしておくよう前提付きで打ち付けました。しかしこりんには依然否定を続けました。私は船をひっくり返すような騒ぎを起こしたくなかったからです。私は禅堂を去り、最初の結制の折親しかった女性 [REDACTED] と文通を始め、老師は彼女にも誘惑をしかけていた事が判明しました。彼女はとても親しい友達なのですが、この私達を毎日苦しめている問題について、僧伽と結制と老師を守る為に、未だに沈黙を続けています。

もう一つ、貴女もご存知かと思いますが、[REDACTED] [REDACTED] が7月4日の接心に来なかった理由は、NYZで接心の2～3日前、栄道老師が彼女を文字通り驚掴みにした為です。

最初の結制が終わって禅堂を去った時、私は真剣に“警笛を鳴らす”事を考えました。でも私は大菩薩禅堂で修行する機会に望みをかけていたので、もし私が是等の事を口外したら大菩薩一切の望みは消えてしまいます。私は自然に解決するだろうと思ったのです。それほど深刻な問題ではなくて、他の誰かが：理事会が、宋淵老師が、龍沢寺の住持が責任を持って解決してくれるであろうと思ったのです。終わりではないのです。ひとりでこの天国を守る必要はないのです。これは他のあらゆる組織においても同様に言える事です。本当の責任はここにあるのです。

私は栄道老師と床を共にした事はないのですが、8月に去る時彼とさようならのキスを交しました。今彼を思い出せば、彼はこの点に置いて並の人間であった－貴女や私と同じように欲望を持った人間なのです。彼はキスを上手にします。概して私は多数の相手と性交渉を持つ事に反対ではありませんし、老師が愛人たちを僧伽に置く事も、もし彼女たちが事情を承知しているのならば反対ではありません。但し、これはトウルムパ リムポシュの例にあるように公明率直であらねばなりません。その上でこれは理事会次第であり、僧伽がこれを認めるか否かで決定すれば良いのです。結局それで良いのではないのでしょうか。

私個人として、栄道老師の誘惑は最初の結制の邪魔になり神経に障りました。当時の私は熱烈、熱狂的すぎる弟子だったので、このような反動が殆ど必要だったと言えます。それでも今、長

い眼で見て思えば、このような事件の経験がなければ、現在より良い佛弟子であったろうかと考えさせられます。今の私は殆ど佛弟子だとはいえません。去年、大菩薩禅堂二度目の滞在の折、彼は私を冷たくあしらひそれがしばらく続いたので私の心は傷つきました。やがて彼の機嫌が変わり、性的な行動が始まりました。このような立場で彼の弟子であり続けることは私にとって（他の女性も同じだと思いますが）困難なことです。彼の関心と援助は欲しいのです。このような状況下で事件が始まるのだと思います。彼はこれを感情の受諾とみて、確かにそう言う事なのでしょうが、その時の師弟間の精神的つながりがセックスへの用意が整った合図となるのです。

なぜ貴女と私がこの話をしなかったのでしょうか - したかもしれませんが。大菩薩禅堂の課題の一つは、新来の女弟子に師による淫らな話の持ちかけが待っている事を前もって知らせる事で、彼女等が急いで逃げ出し世間に広めると言う事の対処になります。私達は彼が少し加減してやってくれば良いのと思っています。結制が終わる迄彼は私に対して冷たく、          を追い回す事も無い様子だったので、私達は彼も少しは分別が出来たのであろうかと思った程でした。

貴女もご存知のように、私は          禅センターに戻りました。ここの道場を見て私は感動しました - 普通の町の中で40人~50人の人びとが坐禅をしています；大菩薩禅堂の接心と似ています。多くの弟子達が5年、10年、あるいはもっと長く堅実な修行を続けています。僧も20人以上います。実のところ、町中の宿舎、共同体的な状態がこのセンターを強めているのですが、これが始まりでも終わりでもありません。弟子は留まり、成長します。弟子は修行し、得る所の何も無いと言う弟子は一人もおりません。栄道老師は弟子等を利己利用し過ぎ、そのため危機を招いているのだと思わずにはおれません。率直に言って、悲惨な状態を招く前に僧伽が責任をもって、事情を明らかにし、改善を計ってくれたら一番良いのですが。これは女だけの問題ではありません。エドリンゼイやたんげんの例もあります。気骨のある弟子達はあっさりと他所へ移って行きます。

大菩薩禅堂の状態は今私のいる禅センターでも古参の人びとはよく知っています。おそらく殆どの人は知っていると思います。ここでは戒律は大切ですが完璧ではありません（師に無限の俗権を持たせる事は常に問題です）。大菩薩禅堂と比べて違反は小さいのですが。

今貴女には非常に大きな責任があり、私から貴女に勧めたい事は、自分一人になる時間を持って考え直してみる事だと思います。他人の悪を語らないと言う戒は確かにありますが、これは僧の誓いであって我々には限界があります。

私は貴女の事がとても心配です。聞く所によれば、栄道老師と恋愛関係にあった女性達は皆やがて飽きられて大きな打撃を受けるそうです。彼は師であり、父であり、愛人であり、全てだったのでこれを諦めると言う事は辛い事に違いありません。心をしっかり持って是等から自分を解き放ってほしいと思います。私の所へ来られても良いし、貴女の禅堂での素晴らしい経歴、典座等があるのですから他の禅センターへ行く事も簡単でしょう。貴女と老師がどのような関係にあったかと言う事は、禅堂を去れば最早貴女だけの問題になります。大菩薩禅堂やニューヨーク禅堂が世界で唯一の避難所ではありません。大菩薩禅堂よりもずっと健全な教団がいくらでもあります。恐れる事は少しもないのです。

          は僧伽の為に貢献的に働いており、私は心強く思っています。彼は貴女と関わりを持った事を悔いています。この件のあった後、彼にとってこの道に行く事はとても困難なことで、深い自己究明を経ねばなりません。彼は手紙を返し彼の取った行動を説明する為に貴女と連絡を取ろうとしました。私は貴女の手紙を読んでおりませんが、この手紙のコピーは理事会にのみ機密文書として見せられたと聞いています。これは貴女にとって愉快な事ではないことを彼は十分承知しており貴女に嫌な思いをさせた事を悔っていますが、引き続き問題解決のため、理事会を目覚めさせるためにはこれが唯一の対策だと思っています。

私の方は、しばらくためらった後、[REDACTED] の運動を支持し援助したいと決心しました。 残念ながら、貴女の立場は“中間的存在”ですが、貴女にとっても良い機会だと思います。 貴女は多分 [REDACTED] に対し憤慨していらっしゃるにちがいません。 もし私があなたの立場におれば、同じように感じると思います。 でも事件が表沙汰になったことですから貴女にとってもこれが最良の道ではないでしょうか。 明らかに、私は今貴女よりも安全な場所にいますが、それでも私はどんな危険を犯しても、力の限りやりとげたいと思っています。 正直に言えば、私もあの男と寝たらよかった、そうすれば、自分もそうだったと言って貴女の本当の仲間になれるのですから。 私はこりに電話をかけて榮道老師との体験を詳しく話し、私の知っている限り、直に聞いた犠牲者達の話もしました。

これは些細な事ではありません。 [REDACTED] と貴女の決心が決定的な要因になるのです。 私は貴女を支持します。 私の望みは貴女に強くなってもらって、勇敢に決着をつけてほしいと言う事です。 私が思うにこの事はジョーンズタウンで起きた事件とあまり差がありません、何故かと言えば、精神的な組織団体において権力と責任という同じ課題に行き着くからです。 もし私達が師を非常に恐れ、そのため責任を問う事無く、彼から誠実な回答を詰問せずに済ませるならば、私達は個人としてジョーンズタウン事件と同じ罪を犯したことになります。 という事は、相も変わらず盲目の道を歩いていると言えます。 最近のハーパー誌にもこれと似た事件の記事が載っていました。

これは私達が何度も討論したように、アメリカ仏教の幼年期の現象だと思います。 私達はパイオニアなのです。 私達は正しい前例を示さなければなりません。 これに失敗すればどのような将来を招くであろうかと、不安になります。 修行場も、宗教の師も責任を持って欲しい； それを怠れば彼ら自身のカルマによって破壊がやって来るでしょう。

もし貴女がご自分の境界線に留まる決心をなさるならば、私は、それはそれとして理解し、支持します、[REDACTED]。 もし私と話をしたいとお考えならば、代金先払いの電話を下さい。

[REDACTED] (自宅) 又は [REDACTED] (職場)。

愛と合掌,

[REDACTED]

追伸 [REDACTED] の依頼によりこの手紙のコピーを彼に送りました。